

「今さらコロナ」

今さらコロナになった高野です。

仕事で、さほどご迷惑をおかけしなくて済んだのは不幸中の幸いでしたが、アポイントの変更にご協力いただいた方々にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

むしろ仕事の調整という意味では、昨年の5月と7月、我が子が一人ずつコロナに罹った時の方が大変でした。感染もしていないのに10日間(合計20日)も自宅待機を強いられたのは、大きな痛手でした。

奇跡的に仕事に大きな穴をあけることは無かったものの、仕事の先送りグセは致命傷になることを身をもって体験させられたので、それ以降、仕事は前倒しするようになりました。人は本当に困った状況にならないと、なかなか自分のスタイルを変えられないものですね。

そして今回は初めての私自身の罹患。7月3日(月)の夜、少し体がだるいな~と思いつつ、翌4日、朝から発熱。その日は大切なお客様との昼食会も予定されていたのですが、経験したことのない熱っぼさに、感じるものがあって、思い切ってキャンセルさせていただきました。

コロナが来て変わったのは、周囲のご理解も速くなったことでしょうか？責められることもなく、「お大事に」と言っていたら、昭和生まれの私は妙にホッとしたものです。今思えば既往症のある高齢者を送迎して、食事会に参加しなくて大正解でした。

屋過ぎ帰宅すると抗原検査キットを空ける余力もなく睡眠。夕方、なんとか気を取り直して、抗原検査をすると陽性。39度超の熱。どうせなら保険がもらえる時にかかりたかったな~なんて余計なことを考えたりしつつも3日3晩、高熱にうなされました。

個人的には熱だけ辛抱してれば大丈夫な病気だなという感じでしたが、寝込んでいる時に、たまたま知人のSNS投稿をみて啞然。その方は、訪問薬剤師として、ここ6~7年で80人ほどを看取っており、その体験が新聞に取り上げられていたのです。

しかも直近2つの看取り体験はいずれもコロナが引き金となっていました。

おひとりはガン患者で、高齢の両親を介護中、コロナに罹患して亡くなったというお話でした。その記事を見た時、自分が誰かの感染源になってないだろうか？と想像するとゾッとしました。

正直、私はここ数年のコロナ騒動を馬鹿馬鹿しく思っていました。病気に対する過度の反応を滑稽だとも思っていました。

けれど人によっては、それが大きな脅威になることを改めて思い知りましたし、そんな弱者に対する配慮は失わないようにしなくてはと考え直させられたコロナ体験でした。